

2 鶯洲地域の特性と予想される災害

1. 地域の特性

鶯洲地域では、子どもの行事をはじめ、盆踊り、ハイキングやソフトボール大会など世代間交流を意識した顔の見える地域活動が盛んに行われており、小学校や中学校など学校園と地域の繋がりが強い地域です。

また、交通・買い物の便がよく聖天さんで行われる行事は古くから知られており、地域のコミュニケーションを図るために役立っています。

大規模マンションなどが多く建っている一方で、古くからの住宅が密集している地域もあります。

近年、子育て中の若い世代が増えてきており、地域の一体感や地域活動を活発にしていくため、若い世代の参加がますます求められます。

2. 防災面からみた鶯洲地域

鶯洲地域を防災面からみると、この付近の海拔は1メートル前後の平坦な低地となっており、水害に対して注意が必要な地域です。

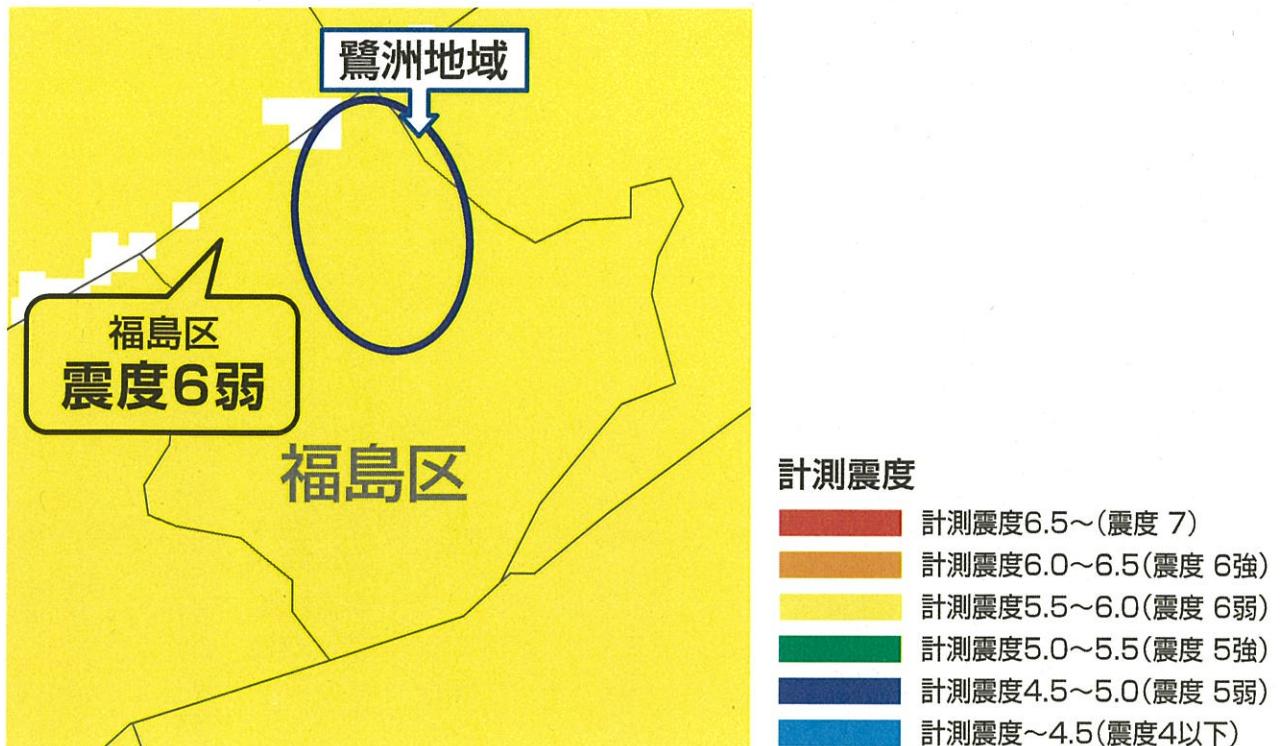
近い将来発生すると想定されている南海トラフ巨大地震が発生した場合、家屋の倒壊、火災、津波、液状化といった被害が想定されています。

広域におよぶ被害が発生した場合には、消防などの公的救助が間に合いません。

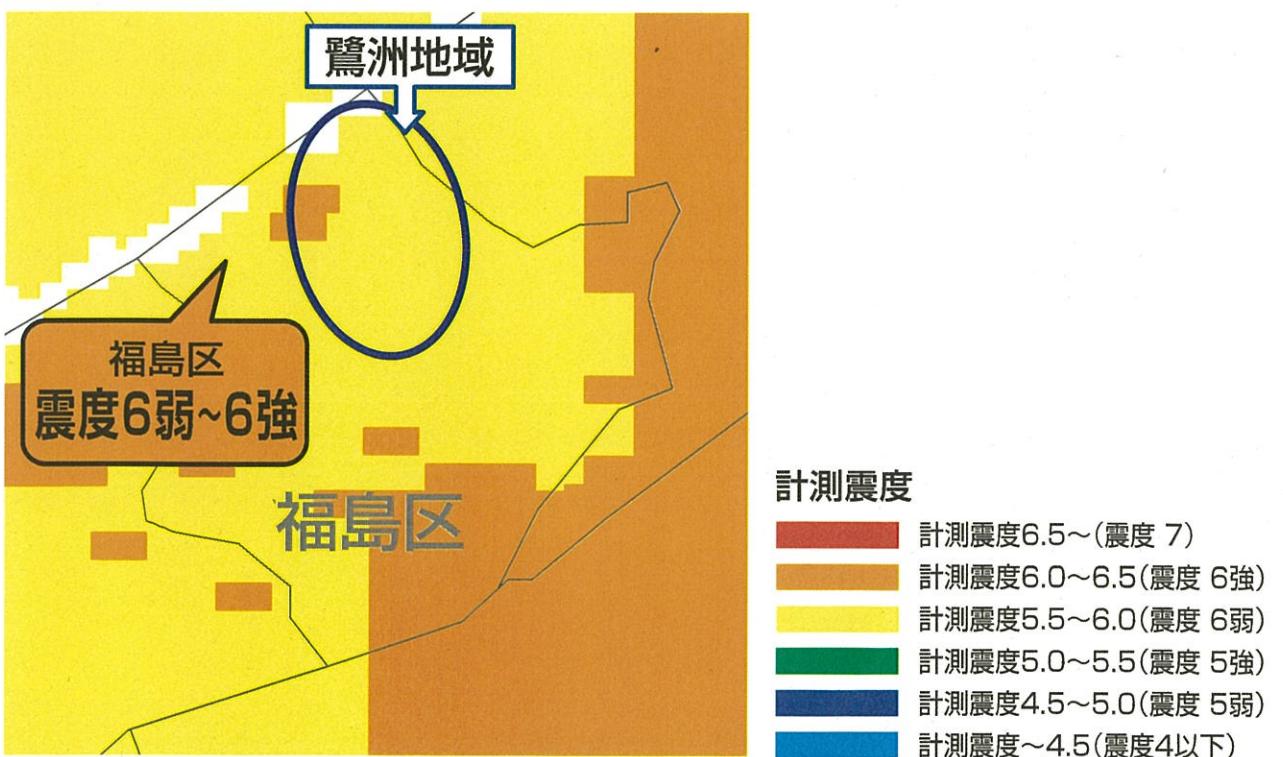
そのため、地域の自主防災組織による安否確認や初期消火、救出・救護により、被害が大きくならないよう準備をしておく必要があります。



3. 海溝型地震（南海トラフ巨大地震）



4. 直下型地震（上町断層での地震）



震度6弱、6強、7とは

電気・ガス・水道などのライフラインはストップすることも予想されます。

震度 6 弱

- 立っていることが困難になる
- 未固定の重い家具の多くが移動、転倒する
- かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損

震度 6 強

- はわないと動くことができない
- 未固定の家具のほとんどが移動し、転倒する
- 壁のタイルや窓ガラスが破損

震度 7

- 揺れに翻弄され、飛ばされることもある
- 未固定の家具は飛ぶこともある
- 補強済みのブロック塀も破損するものがある

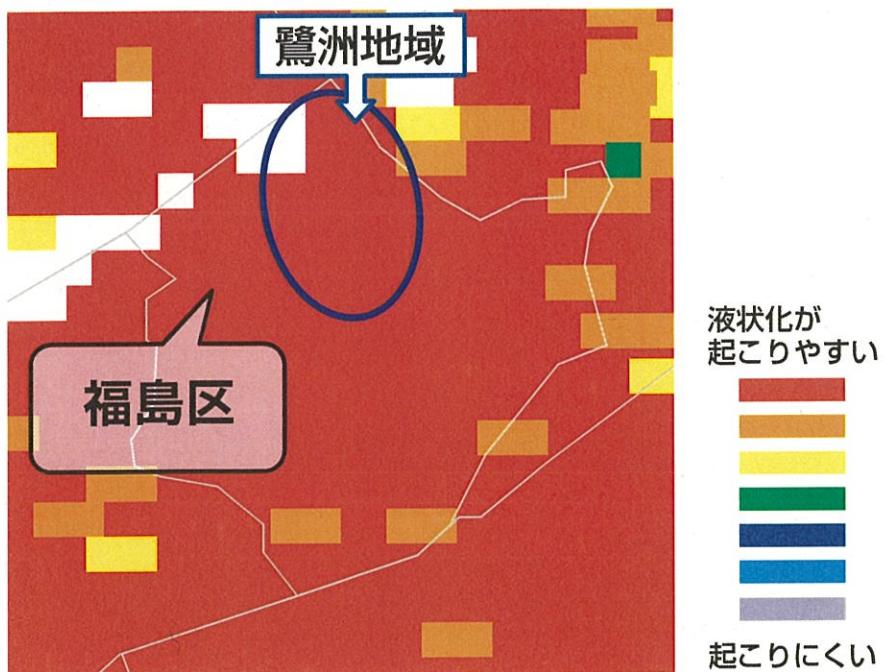


海溝型地震の被害状況
大きく長い揺れで津波がくる可能性がある。



直下型地震の被害状況
揺れている時間は短いが、強く激しく揺れて高い建物でも大きく破壊するものがある。

5. 液状化可能性想定図



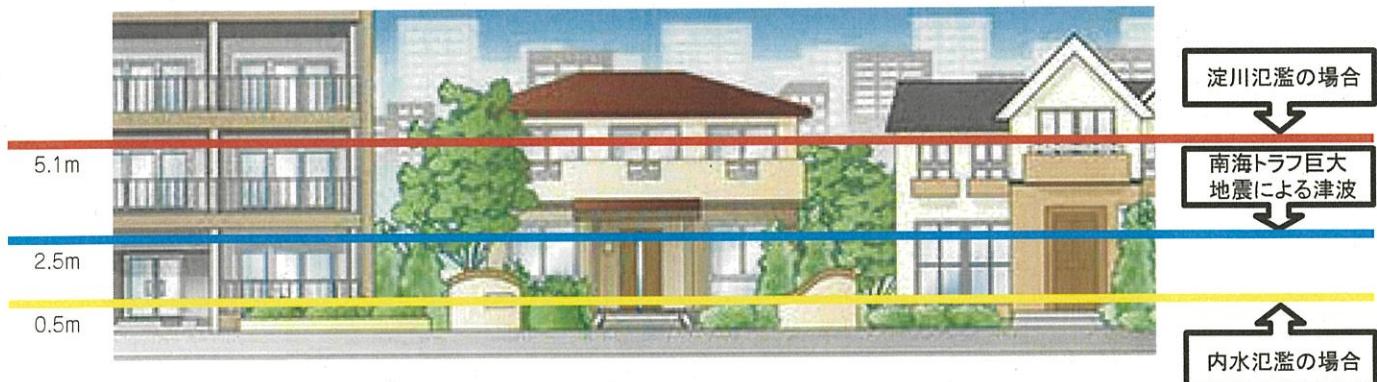
液状化とは...

液状化現象とは、水を含んだ砂質地盤が、地震の際に液体のように噴き出す現象。建物が倒れたり、砂まじりの水が地表に噴出したり、地盤が亀裂・沈下したり、地下に埋設されている空洞の構造物やマンホールが、地表に浮き上がることもあります。

福島区では、全体的に液状化が起こりやすい地域となっています。

液状化の被害が出ると亀裂や泥などで容易に通行ができず、避難路であっても機能しなくなります。

6. 津波被害・河川氾濫・内水氾濫での被害



□南海トラフ巨大地震による津波被害…… 約2.5m(最大) 青色ライン

[マグニチュード9.1程度の地震が発生し、最大クラスの津波による浸水が起きた場合(防潮堤の沈下や防潮施設の開閉状況を考慮)(満潮時を想定)]

福島区内では、最大3mまで浸水すると想定されています。

□淀川が氾濫した場合の被害…… 約5.1m(最大) 赤色ライン

[平成27年改正水防法に基づき、想定しうる最大規模の降雨として、24時間に360mmの降雨を想定]

□豪雨などによる内水氾濫の被害…… 約0.5m(最大) 黄色ライン

[総雨量567mm、時間最大雨量93mmの降雨(東海豪雨級の降雨)を想定]

7. 福島区の被害想定

区分	上町断層帯	南海トラフ	生駒断層帯
全壊棟数	木造 2,295棟 非 201棟	木造 589棟 非 40棟	木造 410棟 非 22棟
半壊棟数	木造 2,190棟 非 532棟	木造 1,015棟 非 148棟	木造 712棟 非 113棟
死者数 (早朝)	46名	6名	3名
死者数 (昼夕)	47~49名	6名	4名
負傷者数	1,292~1,464名	634~685名	434~510名
避難者数	5,180名	1,636名	1,134名

(大阪市危機管理室編集)

8. 鶴洲地域の被害想定

区分	上町断層帯	南海トラフ
全壊棟数	木造 189棟 非 12棟	木造 59棟 非 4棟
半壊棟数	木造 210棟 非 42棟	木造 102棟 非 15棟
死者数 (早朝)	3名	1名
死者数 (昼夕)	3名	1名
負傷者数	249~251名	97~99名
避難者数	436名	166名

(大阪市危機管理室編集)